

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士（医学） 氏名 田邊 起

主査 教授 豊嶋崇徳
審査担当者 副査 教授 野々村克也
副査 教授 武富紹信
副査 教授 藤田博美

学位論文題名

ABO 血液型不適合移植腎組織における血管内皮 Chimerism の検討

本研究は ABO 血液型不適合腎移植における血管内皮細胞キメリズムと移植成績の関連を検討したものである。ABO 血液型不適合腎移植は我が国で最も実施数が多く、その内最も実施数の多い東京女子医大泌尿器科の症例を用いて実施された。症例は A 型から B 型、あるいは B 型から A 型への腎移植の 49 例で、腎生検組織を用い、キメリズム解析は抗 A、抗 B 抗体を用いた免疫組織染色によって行った。その結果、血管内皮細胞血液型キメリズムが 12 例に認められ、その部位は糸球体係蹄、傍尿細管毛細管などであった。次いで血管内皮キメリズムの有無と移植成績の関連が検討され、キメリズムの存在は抗体関連拒絶と薬剤毒性の例で高頻度に認められ、キメリズム陰性例と比較し、腎生着率の有意な低下と関連した。

今まで性染色体 FISH 法を用いた方法が標準的であるが、その精度については従来より疑問視され、移植成績との関連性は不明な点もある。本研究は、世界に先駆けて ABO 抗原をキメリズム解析に用いる新技术を駆使したものであり、高い独創性が認められる。性染色体 FISH 法に比較し、結果が明瞭である点や、性一致移植においても適応可能な利点が認められた。また ABO 型血管内皮細胞キメリズムの有無によって、移植成績との高い関連性が認められ、臨床的に意義のある成果である。さらに、ABO 不適合腎移植は国際的にもわが国で最も実施数が多いことから、国際的に極めて独創性が高い研究であるといえる。今後はこの成果をさらに展開し、ABO 不適合腎移植における拒絶のメカニズム解析へと展開することが期待される。審査員一同は、申請者の研究計画の立案からその実施に至る過程を含め、本研究の成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ申請者が博士（医学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと判定した。